

## 平成22年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成22年11月11日

上場取引所 大

上場会社名 スターツ出版株式会社

コード番号 7849 URL <http://starts-pub.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 菊地修一

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理部長

(氏名) 金子弘

TEL 03-6202-0311

四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成22年12月期第3四半期の業績(平成22年1月1日～平成22年9月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第3四半期	2,521	2.9	163	53.9	183	37.7	119	58.8
21年12月期第3四半期	2,451	—	105	—	133	—	75	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年12月期第3四半期	6,249.03	—
21年12月期第3四半期	3,936.04	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年12月期第3四半期	2,866	2,283	79.7	118,941.48
21年12月期	2,945	2,212	75.1	115,237.10

(参考) 自己資本 22年12月期第3四半期 2,283百万円 21年12月期 2,212百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年12月期	—	0.00	—	2,500.00	2,500.00
22年12月期	—	0.00	—	—	—
22年12月期 (予想)	—	—	—	2,500.00	2,500.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

### 3. 平成22年12月期の業績予想(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,600	7.4	200	16.5	230	12.5	120	6.3	6,250.00

(注)当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、3ページ「2. その他の情報(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(注) 「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年12月期3Q 19,200株 21年12月期 19,200株

② 期末自己株式数 22年12月期3Q 一株 21年12月期 一株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 22年12月期3Q 19,200株 21年12月期3Q 19,200株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づき作成したもので、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は今後の様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、業績見通し等に関する事項は3ページ「(3) 業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	3
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
(第3四半期累計期間) .....	6
(第3四半期会計期間) .....	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9
4. 補足情報 .....	9
(1) セグメント別売上実績の推移 .....	9

## 1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間(平成22年1月1日～平成22年9月30日)におけるわが国経済は、新興国の需要を背景とした海外経済の改善や政府による緊急経済対策の効果などにより一部の企業において収益改善の傾向がみられました。しかし、一方で雇用環境はあまり改善されず、学生の就職内定率は近年まれにみる低い数値を示しており、個人消費においても引続き弱含みの成長となっております。出版業界においても、活字離れや電子メディア等の出現により市場規模としては縮小傾向が続いております。

このような経済環境の中、当社では”感動メディア企業”として女性向けの情報雑誌「オズマガジン」や女性向けウェブサイト「オズモール」をはじめとするオズブランドの拡大や「ケータイ小説」と呼ばれる若年層に人気の小説の発行、あるいは東京都限定で発行するフリーマガジン「メトロミニッツ」や、地域情報を掲載した「アエルデ」などのフリーペーパーの発行を継続的に行ってまいりました。また、スマートフォンなどの新しいデバイスに向けたコンテンツの表現方法にも積極的に取り組んでまいりました。

このような営業活動の結果、当第3四半期累計期間の売上高は25億21百万円(前年同期比2.9%増)、営業利益は1億63百万円(同53.9%増)、経常利益は1億83百万円(同37.7%増)、当四半期純利益は1億19百万円(同58.8%増)となりました。

#### <雑誌事業>

雑誌事業におきましては、有料情報雑誌「オズマガジン」やフリーマガジン「メトロミニッツ」、若者向けの「ケータイ小説」と呼ばれる書籍の発行、そのなかでも文庫版に注力して事業を展開してまいりました。しかしながら無料、有料を問わず、雑誌やフリーペーパーの広告は景気の後退とメディアの多様化により、前年同期と比較すると売上は大幅に減少しております。一方、いわゆる「ケータイ小説」と呼ばれている書籍の発行におきましては、昨年4月から発行を開始した「ケータイ小説文庫」シリーズが全国の中学高校生の間で大変人気で、毎月コンスタントに4タイトル程度を継続して発刊する事ができており、この書籍売上というカテゴリーに関する売上は堅調に推移してまいりました。

このような営業活動の結果、雑誌事業の売上高は10億19百万円(前年同四半期比12.4%減)となりました。

#### <インターネット事業>

インターネット事業におきましては、女性向けウェブサイト「オズモール」の運営などを中心に事業を展開してまいりました。「オズモール」内にて展開しております「オズのプレミアム予約」では、オズが厳選したレストランやホテルなどの施設を紹介し、実際に施設を利用した段階で、施設側から手数料を頂く完全成功報酬型のビジネスモデルとなっております。こちらのコンテンツは掲載施設数も1,100施設を超え、継続して掲載する施設の増店舗施策を図っております。また、提携施設数の増加もさる事ながら、1ユーザーあたりのリピート率や利用回数を増加させる事を目的に、体験型のイベントと融合させた魅力的なコンテンツ開発やプレミアム予約を利用する度にポイントをユーザーに付与するサービスなども継続的に行ってまいりました。

このような営業活動の結果、インターネット事業の売上高は10億22百万円(前年同四半期25.8%増)となりました。

#### <地域情報紙事業>

地域情報紙事業におきましては、無料の地域情報紙(フリーペーパー)「アエルデ」の広告掲載営業活動と企業のパンフレットなどの販促物の制作請負を行う事業を継続して展開してまいりました。「アエルデ」においては、地元の街に密着した飲食店の情報などをクーポン型の広告として掲載する広告営業活動を継続して行ってまいりました。こちらの事業は景気低迷の影響もあり、売上としては昨年同期と比較しますとわずかながら減少いたしました。また、企業パンフレットなどの販促制作物の受注請負の事業は昨年と同程度で推移いたしました。

このような営業活動の結果、地域情報紙事業の売上高は4億79百万円(前年同四半期比1.0%増)となりました。

### (2) 財政状態に関する定性的情報

#### (資産)

当第3四半期会計期間末の資産は、前事業年度末と比べると78百万円減少し、28億66百万円となりました。

流動資産は、繰延税金資産などの増加があった一方で、現預金の減少や売掛金の減少が発生したため、事業年度末に比べ89百万円減少し、24億90百万円となりました。

固定資産は無形固定資産などが増加し、前事業年度末と比べると10百万円増加し、3億75百万円となりました。

#### (負債)

当第3四半期会計期間末の負債は、前事業年度末と比べ1億50百万円減少し、5億83百万円となりました。

流動負債は、返品調整引当金や賞与引当金は増加しましたが、一方で買掛金などが大幅に減少したため、前事業年度末と比べると1億56百万円減少し、4億59百万円となりました。固定負債は、退職給付引当金の増加により、前事業年度末と比べると6百万円増加し、1億23百万円となりました。

#### (純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べると71百万円増加し、22億83百万円となりました。こ

これは主に、増益により利益剰余金が71百万円ほど増加したためであります。

#### キャッシュ・フローの状況

当第3四半期会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べ1億24百万円増加し、14億85百万円となりました。

当第3四半期期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、54百万円(前年同四半期の得られた資金は5億49百万円)となりました。これは主に、税引前当四半期純利益2億2百万円を計上し、賞与引当金が60百万円増加し、売上債権も81百万円減少しましたが、一方で仕入債務が1億92百万円減少した事などによるものです。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、1億18百万円(前年同四半期に使用した資金は62百万円)となりました。これは主に固定資産の新規取得などが61百万円あった一方、定期預金満期解約による収入が1億80百万円あった事によるものです。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は48百万円(前年同四半期に使用した資金は47百万円)となりました。これは全て前事業年度決算の剰余金処分である配当金の支出48百万円が発生した事によるものです。

#### (3) 業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想に関しましては、平成22年2月12日発表の「平成21年12月期 決算短信(非連結)」に記載しました業績予想に変更はありません。

## 2. その他の情報

### (1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### ① 棚卸資産の評価方法

当第3四半期会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略して前事業年度末における実地棚卸を基礎とした合理的な方法により算出しております。

#### ② 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付額の算定に関しては、加味する加減控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前事業年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況について著しい変化がないと認められる場合には、前事業年度末において使用した将来の業績予測等を利用する方法によっております。

### (2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成22年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,485,871	1,541,069
売掛金	935,832	1,017,367
製品	27,085	18,397
仕掛品	23,308	21,453
前払費用	8,848	8,716
繰延税金資産	52,498	29,685
その他	8,546	7,175
返品債権特別勘定	△33,902	△53,156
貸倒引当金	△17,123	△10,294
流動資産合計	2,490,965	2,580,413
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	60,651	64,983
減価償却累計額	△34,912	△38,289
工具、器具及び備品	228,549	212,840
減価償却累計額	△181,923	△173,641
有形固定資産合計	72,364	65,893
無形固定資産		
商標権	3,998	4,147
ソフトウェア	87,564	86,430
電話加入権	2,376	2,376
その他	3,085	—
無形固定資産合計	97,024	92,954
投資その他の資産		
関係会社株式	30,000	30,000
投資有価証券	41,430	42,875
出資金	100	100
長期前払費用	152	204
差入保証金	80,278	80,251
繰延税金資産	54,478	53,014
投資その他の資産合計	206,439	206,446
固定資産合計	375,828	365,293
資産合計	2,866,793	2,945,706

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成22年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	149,052	341,290
未払金	18,595	40,690
未払法人税等	60,751	96,154
未払事業所税	2,310	3,000
未払消費税等	17,536	23,377
未払費用	23,919	14,914
前受金	22,006	16,859
預り金	8,931	13,356
賞与引当金	78,000	18,000
返品調整引当金	78,608	48,292
流動負債合計	459,712	615,936
固定負債		
退職給付引当金	123,405	117,218
固定負債合計	123,405	117,218
負債合計	583,117	733,154
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	540,875	540,875
資本剰余金	536,125	536,125
利益剰余金	1,203,988	1,132,007
株主資本合計	2,280,988	2,209,007
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,687	3,544
評価・換算差額等合計	2,687	3,544
純資産合計	2,283,676	2,212,552
負債純資産合計	2,866,793	2,945,706

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
売上高	2,451,209	2,521,221
売上原価	1,726,534	1,724,430
売上総利益	724,674	796,790
返品調整引当金戻入額	71,561	48,292
返品調整引当金繰入額	66,576	78,608
差引売上総利益	729,659	766,474
販売費及び一般管理費	623,763	603,459
営業利益	105,895	163,015
営業外収益		
受取利息	9,495	7,747
受取配当金	10,195	9,793
雑収入	8,361	3,047
営業外収益合計	28,052	20,589
営業外費用		
雑損失	628	—
営業外費用合計	628	—
経常利益	133,320	183,604
特別利益		
返品債権戻入益	2,267	19,253
貸倒引当金戻入額	—	53
特別利益合計	2,267	19,307
特別損失		
固定資産除却損	5,948	—
特別損失合計	5,948	—
税引前四半期純利益	129,639	202,911
法人税、住民税及び事業税	88,417	106,619
法人税等調整額	△34,349	△23,689
法人税等合計	54,067	82,930
四半期純利益	75,571	119,981

(第3四半期会計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
売上高	894,285	823,197
売上原価	624,242	564,230
売上総利益	270,042	258,966
返品調整引当金戻入額	60,696	90,903
返品調整引当金繰入額	66,576	78,608
差引売上総利益	264,162	271,262
販売費及び一般管理費	193,129	196,264
営業利益	71,032	74,997
営業外収益		
受取利息	4,386	2,265
受取配当金	6	3
雑収入	1,222	829
営業外収益合計	5,615	3,098
営業外費用		
雑損失	628	—
営業外費用合計	628	—
経常利益	76,020	78,096
特別利益		
返品債権戻入益	2,267	10,467
特別利益合計	2,267	10,467
特別損失		
固定資産除却損	5,948	—
特別損失合計	5,948	—
税引前四半期純利益	72,339	88,563
法人税、住民税及び事業税	58,154	64,735
法人税等調整額	△31,012	△31,582
法人税等合計	27,142	33,153
四半期純利益	45,197	55,410

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	129,639	202,911
減価償却費	42,590	49,387
固定資産除却損	5,948	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,420	6,829
賞与引当金の増減額(△は減少)	54,000	60,000
退職給付引当金の増減額(△は減少)	1,516	6,186
返品債権特別勘定の増減額(△は減少)	△2,267	△19,253
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△4,985	30,315
受取利息及び受取配当金	△19,690	△17,541
売上債権の増減額(△は増加)	203,756	81,534
たな卸資産の増減額(△は増加)	18,587	△10,542
その他の資産の増減額(△は増加)	△8,686	△1,502
仕入債務の増減額(△は減少)	△56,390	△192,238
未払金の増減額(△は減少)	△13,531	△19,835
未収消費税等の増減額(△は増加)	13,176	—
未払消費税等の増減額(△は減少)	18,080	△5,840
その他の負債の増減額(△は減少)	21,456	9,037
その他	1,937	△3,573
小計	406,559	175,874
利息及び配当金の受取額	19,690	17,541
法人税等の支払額	△2,659	△138,449
法人税等の還付額	126,276	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	549,867	54,965
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	—	180,000
有形固定資産の取得による支出	△16,902	△31,385
無形固定資産の取得による支出	△45,380	△30,190
差入保証金の差入による支出	△18	△26
差入保証金の回収による収入	24	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△62,278	118,397
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△47,646	△48,561
財務活動によるキャッシュ・フロー	△47,646	△48,561
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	439,942	124,802
現金及び現金同等物の期首残高	1,133,393	1,361,069
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,573,335	1,485,871

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) セグメント別売上実績

(単位：千円)

セグメント	前第3四半期累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)	増減	前期比 (%)
	金額	金額	金額	
雑誌事業 (広告)	624,519	404,053	△220,466	64.7
雑誌事業 (販売)	539,075	615,291	76,216	114.1
雑誌事業小計	1,163,594	1,019,345	△144,249	87.6
インターネット事業	812,734	1,022,130	209,396	125.8
地域情報紙事業 (広告)	370,274	350,276	△19,998	94.6
地域情報紙事業 (企画)	104,637	129,469	24,832	123.7
地域情報紙事業小計	474,880	479,745	4,865	101.0
合計	2,451,209	2,521,221	70,012	102.9